

# カヤネズミ

*Micromys minutus* (Pallas)

嚙歯目ネズミ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

## 選定理由

河川、湖沼、水田周辺の不安定な草地にのみ生息し、生息環境の改変により個体数が少ない。

## 形態

背面は暗褐色で覆面は白色。成体では頭胴長50～80mm、尾長61～83mm、後足長14～17mm、体重7～14g。乳頭式2+0+2=8。

## 国内分布

本州の太平洋側では宮城県以南、日本海側では山形県以南、四国、九州、隠岐諸島、淡路島、豊島、因島、対馬、天草下島などに分布する。

## 県内分布

能美市（旧辰口町）、白山市（旧鶴来町）の手取川河川敷や、加賀市の鴨池、大聖寺川下流部、上野、金沢市の金腐川、大宮川、角間、小松市滝ヶ原、能美市徳山で採集されたり巣が確認されている。能登地方では宝達志水町、七尾市、輪島市、中能登町、珠洲市で聞き込みにより営巣の情報が得られたが本種のものとは確認されていない。

## 生態

低地の河川敷、草地、水田、沼沢地などイネ科・カヤツリグサ科植物が密生する場所に生息する。アシ、ススキ、チガヤなどを用いて、地上70～110cmに球型の巣を作る。冬期には畦道の地表堆積物や地下の孔道にも生息する。

## 生息地の条件

イネ科・カヤツリグサ科植物が密生する環境が維持され、春から秋にかけては刈り払いが行われず、営巣の妨げにならないことが必要。この時期の刈り払いでは、部分的な刈り残しがカヤネズミの避難場所となり有効である。冬期は、地上および地下で生活するため冠水しない場所が必要だが、春から秋にかけては他のネズミとの競争を避けるため一時的な冠水があったほうが良い。冬期の刈り払い火入れは、草地の維持のため実施した方が良くと思われる。

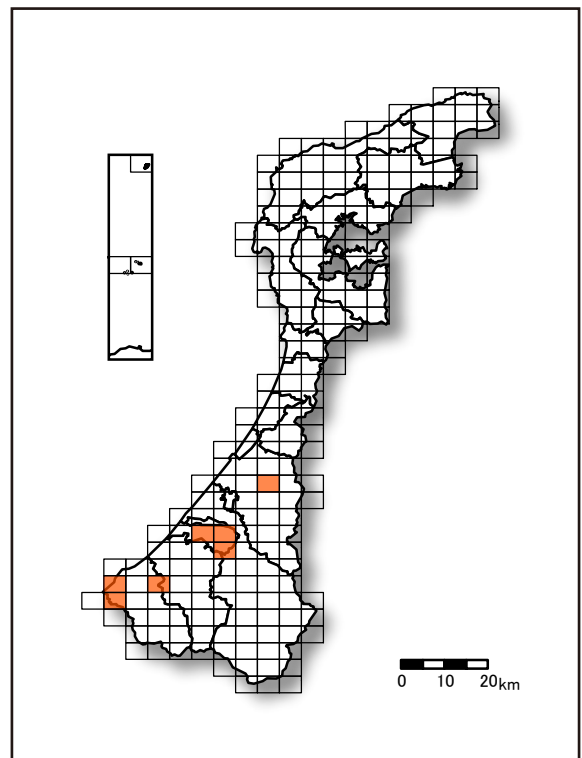
## 生存の危機

河川改修による自然草地の消滅や、河川管理による広い面積の草地の夏期一斉刈り払いは営巣地を破壊する可能性がある。生息地では部分的な刈り残しが望まれる。(A)

## 参考文献

澤邊久美子、島佐知子、夏原由博 2005. 堤防植生の刈り取りがカヤネズミ *Micromys minutus* の営巣に与える影響. ランドスケープ研究 vol.68. 5  
阿部 永ほか 2005. 日本の哺乳類. 東海大学出版会. 神奈川.

写真(図)はありません。



県内の分布